

いろは文字 鐺 (その二十二 雜) 江尻成泰 ㊦

いろはにほへと ちりぬるを 色は匂へど 散りぬるを
わかよたれそ つねならむ 我が世誰ぞ 常ならむ
うゐのおくやま けふこえて 有為の奥山 今日越えて
あさきゆめみし ゑひもせず 浅き夢見じ 酔ひもせず

(ん)

以呂波はろぼろ

浪漫の以呂波

はて言海に

日本語の顔

蛍の行方

平成去ると

遠く行く道

些とスマホ操り

理屈は要らぬ

盗みは困る

瑠璃味酒を

招くや友の輪

われらのここが

鴨居る島よ

よき国がまた

台風疲れ

列島は何ぞ

そも狙はれつ

鶴亀添ひ寝

罫草花

鳴く鶴は空

楽亀這はむ

武蔵小次郎

腕磨く武威

居合間合の

範深しおお

置く石遠く

奇しき策や

やれアタリの魔

正に物の怪

ケイマにタケフ

不意征何処

劫の技冴え

栄誉の一手

天元にああ

朝の清けさ

最果て岬

霧の露天湯

湯けむりの夢

名湯南

道は遙けし

四季の呼び声

絵になる夕日

日の照る朝も

燃ゆる景成せ

拙車動かす

(平成三十年十月二十七日)

言海^{げんかい} 言葉の海。言海と言えば大槻文彦が著した国語辞典。初版は明治22年。巻頭の「本書編纂ノ大意」の(二)に「此書ハ、日本普通語ノ辭書ナリ・・・」とある。後に「大言海」に発展。

平成去ると 平成もあと半年。

些とスマホ操り スマホを持ってないのに・・・。

瑠璃味酒 瑠璃はどんな酒でもビールでもよろしい、酒を美しく言った美称として付けた。

招く 招き寄せる。万葉集の「正月立ち 春の来らば 斯くしこそ 梅を招きつつ 楽しき終

へめ」(巻五―八一五 正月になって春が来たら、このように梅の花を招き寄せて楽しみの極みを尽くしましょう)に倣った。

楽亀 這はむのんびりと気楽に(?) 亀はそのそ。

拙車動かす 拙車は拙者に掛けて自分の車。マイカーでドライブに出かける、の意味にとつてもらいたいのだが、ちょっと無理?

(平成三十年十月二十七日)

後記

いやはや言葉の海で遊ぶのも何しろ泳ぎが苦手なれば、途中で脚がつったり、波にのまれて溺れそうになったりと、無謀な遠泳だが、やつのことでゴールの「す」の浜まで泳ぐ切った。空想、夢想、その他を緬い交ぜにした荒唐無稽の作を再々。

(平成三十年十月二十八日)